



アフリカと共に生きる

アフリカ在来知の生成と共有の場における実践的地域研究



アフリカで研究をする、とは？
研究者がアフリカの人びとと
「共に生きる」ことは可能なのか？



アフリカ在来知の生成と共有の場における 実践的地域研究プロジェクト

当事者意識を備えた研究者を含むアクターが、現代アフリカにおける**新たなコミュニティ**の生成過程に参与し、理解を深める。

＊「新たなコミュニティ」：人びとがより良い生活のために行う様々な実践の場のこと。



point!

「在来知」に着目

在来知って何？

在来知

人びとが自然・社会環境と日々関わるなかで
形成される実践的、経験的な知

インジェラ



インジェラはエチオピアの
主食です。テフという穀物
から作るクレープのような
もので、上にワット（おか
ず）を載せて食べます。

在来知の生成事例



伝統的な技術（土器の焙烙）で、
インジェラを焼く

燃料不足や煙害の
問題を解決

上手に焼ける「土器」
の諸特性を活用

新しい技術、思想を
取り入れ、融合させる。



土器に電気コイルをつけた
インジェラ電気調理器

このような個々の在来知の事例が共有される場として、「新たなコミュニティ」が生成する。

この過程に研究者が参加し、共に動くプロジェクト

＊ 4つの調査グループ

＊これまでの開発実践、支援のスタイルとは異なる。

環境-生業

保健-健康

教育-共生

文化-創造

調査地域



エチオピア西南部、
アリ人（約20万人）の住む村。
この地域の主食はテフなど穀類5種と
エンセーテ、ヤム、タロなどのイモ類。

調査方法

【きく】



【はかる】



【つくる】



基礎的調査

実践的調査

＊いずれも長期間、継続的に行う

